

時事新報

第千三百十九號
明治十九年七月五日 月曜日
舊丙戌六月三日
(丙寅)

入山前四時五十分
入山後九時五十分
入山前八時五十分
入山後九時五十分
請滿年終八時五十分
(西曆一千八百八十六年)

時事新報代價
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少
○時事新報代價は前年同様で三割減額に必らず減少

時事新報

鐵道は距離のいよゝ長
鐵道は距離のいよゝ長さは従って功も亦いよゝ長きものあり例へば東京上野發れ線路の如き初め熊谷まで達したるときは便利は固より便利なりと云ふも十六里の道を馬車人力車にて半日餘りに行くと汽車にて凡そ二時間着るとの相違のみあれば熊谷より延長して高崎横川に至り一方は宇都宮に達したる今日よ於て見れば東京より宇都宮横川までは各三十里の道一ひかし流の旅行ならば丁度三日路、今の馬車人力車にても凡そ一日半を費す可成と汽車にて一日お復容易ありとあるが故に三十里程旅行して旅の思を爲そに足らず一入の便利を感可成左れば此三十里を延をして京都大坂神戸の線路を延び又延をして下ノ關ノ九州地方に達したらば其便利は如何ばかりあるべきや實に想像外の事ありん十里程線路を百里に延ばすは十倍の相違あり其便宜の相違は決して十倍に止まらずして二十倍も又三十倍もある可成に十里の工事は百萬圓を費して正に百萬圓を得るものならば之に九百萬圓を足し千萬元を得るものなる可成蓋し我輩が日本鐵道に仕事と急ぐも敢て奇を好むにあらざる日本の人向は未だ鐵道の佳境と知らざる者なるが故一日も速に其功の本色を明やして眞成の便利を得せよと欲するもの微意の也

今日如き工事の緩慢
今日如き工事の緩慢は延長のことは迎も容易に望む可らずとする歎、然らば則ち今のまゝにても尚所望の箇條ありと申せば貨錢の一事より抑も今日本國中に行はるゝ鐵道列車の貨錢は何を標準として其根本を定めざるもの我輩の知らざる所ありと其貨錢を定むるもの大抵馬車人力車蒸氣船の貨錢と同様にして汽車本を運し、馬車以下のものにては運と申す位に相違なきが如し其一律を算れば各地鐵道の停車場には人力車群を成し客を見れば車を揚ぎ貨車は汽車並と云ふ者多し即ち汽車同様の貨錢にて汽車の行く處まで運けらんとは意味あり成るはと東京にして品川の停車場より新橋までを汽車貨以上十五錢、中等十錢、下等五錢なるが故に人力車十五錢は固より過分、十錢を投する者は最上の客にして稱されれば先づ五錢を以て汽車並の貨錢とするも車夫のためには好仕事なるべし乗客の貨錢の如くも運送の至りに至れば尚ほ是れよりも甚だ汽車に托する荷物の大抵乗客手廻りの小荷物又は急要の物限り商賣品は先づ以て考へものありと云ふ其次第は米倉酒倉石油木竹材木なりの商賣上の利益は運賃に關すること容易ならず厘毛の高下を争ふは商家の常に其手段と案するも何分にも今の鐵道を利用する場合に至り難い例へば東京横濱間の運送にても商賣品は大抵皆船に便するもの、如し我輩の所見を以てすれば京濱の鐵道に通過するうららは東京の市は直に横濱の波戸場と密着したるに異ならず海運の船舶特に品川沖に用事あれば格別なれども左なきものは横濱の波戸場に荷揚積して至當の事ならん目下列車の出發は凡一十五分毎にして夜十一時後は絶無あれども之を増して毎半時又は毎二十分十五分と爲して夜中も休息をすることと外國輸出入の商品は無論内國の米穀、酒、肥料等如何なる荒物にても其運賃を引下げて海運よりも一層の低價を以て運送することからば俗に云ふ數でこそその主義に違はず必ず収入の利益もあるべしと信ず又荷物の外は乗客の貨錢も大に引下げて例へば人足職工一荷商人八百屋肴屋の類も其荷物と共に汽車に乗りて貨車は五錢か十錢ありと云ふは横濱の肴屋が東京へ來り、東京の八百屋が横濱の市へ出で、人足職工も双方の得意先に働くと得て如何ばかりの便宜あるべきや現に今日にても東京の人の言を聞くに魚肉類の價は横濱より安くと云ふ者も東京の方餘程下直なり、人足職工等東京より各地此比しては隨分貨錢の低きものには非ざれども横濱は流石に開港の場所にして藍色都て高貴隨て貨錢の割合も東京の比に非ずとして怪まじきものなきが如くは我輩の目を以てそれば甚だ怪しまざるを得ず十八英里の間を鐵道で敷き少くも急行すれば二十三分時に人も荷も運す可き其双方に貨錢物價の相違ありといはざる可からんと欲するも得べからず若し是を怪まらんと云はば東京の淺草區と京橋區との間に物價は平均すると見れば怪しむべからず或る京橋區の京橋區に於けると横濱の東京より何れとの相違あるや唯其距離の稱呼に何丁と云ひ何里と云ふの相違あるに依りて往來の時間には毫も運送あると見ず人事の緩急不便は時の運速を在て距離の遠近にあらざる汽車は即ち此時と短縮するの利器されども我日本人は尚ほ未だ其利を利せざる者と評するも可からんのみ

利用するを得れば越前敦賀港の如きも湖水の汽船に連絡して直に京坂神に接するが故に北國の荷物は盡く同港に集る可き筈なれども運賃の一點に至りて意の如くならず伏木の米と敦賀へ運ぶ敦賀より汽車にて太湖の汽船と移し夫より大津に荷揚去て大坂まで鐵道にて陸送するよりも伏木より船に積み進に馬關の瀬戸を廻りて大坂へ海運の方、便利なりとて其双輪盤を取るもの多しと云ふ鐵道事業家のためには大に考案を要する所のことなるべし

朝鮮輸入米稅復課の延期 薩に朝鮮政府は來七月十一日より其各港輸入米の課稅を復すると通知きたるが右は同月二十二日迄延期せよと去月三十日附と以て在國我が公使館より電報ありたり (本年七月三日官報)

虎列刺
明治十九年七月三日
大坂府 七月二日 新患者 百五十七人 新死者 百二十八人
京都府 同 同 同 同 同 同 同
兵庫縣 同 同 同 同 同 同 同
岡山縣 同 同 同 同 同 同 同
廣島縣 同 同 同 同 同 同 同
愛媛縣 同 同 同 同 同 同 同
合計 新患者三百八十八人 新死者二百四十三人 (本年七月四日官報)

大坂通信
六月廿八日(日)コレラ症昨日電報せし如く府下のコレラ病は益々猖獗の勢、あるに付大坂府廳より衛生上有害と見認る飲食物並に腐敗に屬する者、販賣することを當分禁止せられたるが其有害物とは則ち鮮魚、鰯、魚、鯛、鰒、天鰻、生鮎、煎豆腐、揚げ豆腐、等もて汽水を交へる水も賣るとを禁止したり左らぬだに不景氣の今日、當り右の如く販賣を禁止されたるを以て是等物品を賣する商家は非常の困難に陥り夫れが爲め物商等之本日より口締にて休業同様に賣買を止めたる者十中八九に至れり其他此種類に關係の商業者は何れも同様大困難の有様あり又右禁止に付昨日同商人等を各警察署へ呼出し段論の上販賣禁止の旨を達せられ何れも受書を出したり又是に反し消化の能くして滋養となるべき飲食物は、随て需用多く爲る一二割方の販賣を求むるが就中鰯の如きは一割に付三四

四厘位も賤賣して衛門氏の火葬場、園林が漸く十八、現今二十三圓部専有は過院院にて報せたる如きは同會にて別しを召集して再議をなするを以てせる事に定まり百二十八坪内海師詰所五十一坪坪ありと、坂現四五六三ヶ月間界區大小路町寄券は百圓株おれ月廿日迄に尙十圓拂込にて當出察本署拘留、雄氏外十九名は署へ移され、大坂商船會社減少せしより大五千萬圓を減額以上収入を松山通信、虎列刺病、昨日更に昨日は病勢の劇なるは病者三名全治百十七名、で傳染病預防に講定する爲め、是は臨時急務として居れりと、に於て早、和、を聞きし出品、は續々出品あり、十日閉會の都合、新兵四百餘名、列刺病流行の行ひ明後廿日、地は一兩日、後温泉へは、出掛ける者多し、如何あらんと、年になら大、極める程あり、成る及びしを、有尾主税官、稅の検査中、前にて去る、と改めたり、當地の憲報計は、